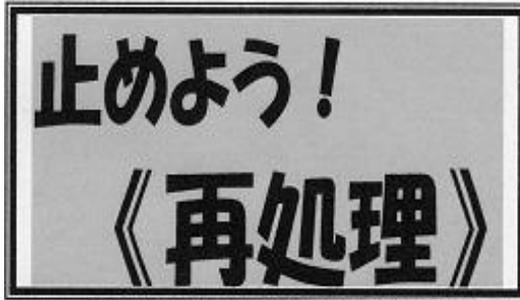


三陸の海を
放射能から守る岩手の会

ミニコミ通信

第 7 号



2005(平成17)年
10月6日発行

編集事務局

S.Oshida

TEL.FAX 019-623-1636

増田知事、青森県に安全情報提供申し入れ 県議会、請願採択

試験操業は慎重に、 環境影響評価の実施



増田知事への要請行動

十月三日 県庁知事室

守る会は、三陸の海を放射能被害から守るために、議会での一般質問と併せ県議会に対して請願書を提出してきました。

三日の本会議で「①アクティブ試験操業について、慎重を期すること、②三陸沿岸の環境影響評価を行うことの二点を、岩手県として青森県と原燃に申し入れる」とする請願が全会派一致で採択されました。

また同日、議会開会前の知事要請では、増田知事は、「本会議の決議を受けて、青森県や原燃、文部科学省などへ安全に関する情報の提供を申し入れる」と答えました。

三陸の海を守るために岩手県政がいかに進められるべきか重要な局面を迎えています。

五二六七人の

署名簿を提出

増田知事と私たちの面談は、平沼健県議(宮古・自由民主クラブ)と三浦陽子県議(盛岡・民主県民)の紹介によって、三日午前、知事室で行われました。

平沼県議から紹介の挨拶があった後、永田文夫請願世話人から要望事項とその趣旨説明がなされ、八月以来集めてきた五二六七人の要請署名簿が知事に手渡されました。

「要望書」と「署名簿」を受け取った増田知事は、「三陸の海を守るためにこの問題を重要な問題と認識している。本会議で答えたように、青森県に安全性についてさらなる情報提供を求め、調査拡大を文部科学省に要請してゆく」と

答えました。また、「本日の本会議での請願採択の結果を見て判断する」とも述べました。

放射能被曝の
最新の資料を手渡す

永田世話人は、再処理工場の問題点と放射能被曝について、最新の資料を図版に拡大して示し説明し、増田知事に直接手渡しました。

その主なものは、「再処理とめよう! 全国ネットワーク パンフ」「セラフィールド周辺の汚染地図」と下北・三陸の比較地図、「六ヶ所工場事業申請書」記載の放射能廃液量から計算した四万七千人分の経口致死量試算書、「低線量被曝で発がん・アメリカなどの国際調査・岩手日報記事」、「国連コーデックス委員会アルトニウム基準十分の一引き下げ提案」などでした。

永田世話人の説明に対して、増田知事は、千葉環境生活部長に手渡した別冊資料と共に検討すると話しました。



県議会要請行動 各会派を回り要請 痛感した情報の不足

署名運動の広がり

八月以来守る会として集めてきた「再処理工場からの放射能を三陸の海に流させない」とを求め署名は九月初旬で三千人を越えました。

九月県議会要請行動

一五日招集された県議会にむけて守る会は、要請・請願行動に取り組みました。二〇日、「県議会請願書」を作製し全会派を回り要請行動を行いました。各会派とも共感賛同の手応えがありました。

二六日、民主・県民、自由民主クラブ、政和社民、共産の各会派代表による「請願書」の文言擦り合わせが行われましたが、「県民の理解が得られるまで運動を始めない」を「県民への説明を求め、アクティブ試験操作について慎重を期するよう申し入れる」と修正するならば、全会一致で受理出来る状況となりました。守る会として「操業試験を始めない」という署名運動の文言を降ろしたわけ

ではありませんが、県議会請願として一部修正を受け入れ、採択の実現をめざしました。

本会議一般質問

二七日開催された本会議において、平沼健議員は「六ヶ所再処理工場は放射能を海に捨てる危険なものである」として知事に質問しました。

二八日には三浦陽子議員が「英国では子どもの歯からプルトニウム検出の例がある」などを挙げ質問に立ちました。

増田寛也知事は「この問題を重大なものと受けとめている。青森県に情報の提供を定期的に求め、種市沖の海水調査や、さらに泥や生物の調査にも拡大したい。再処理の技術評価は国の責任で行われるべきだ。文部科学省に調査拡大を要請してゆく」と答えました。

環境福祉常任委員会 で全会一致採択

一九日環境福祉常任委員会が開催されました。請願書について高橋比奈子議員（自由民主クラブ）、平野ユキ子議

員（民主県民）から質問があり県側から「管理目標値があり、自然界と比べて微量である。放射能には半減期があり、なくなる」と回答がありました。これに対し、工藤大輔議員（民主県民）は「リアス式海岸では放射能が溜まるのではないかと指摘し、平野議員は「プルトニウムの半減期は六三三〇年、それでなくなると言えるのか」と反論しました。

自由民主クラブからは「この問題はかなり専門的で難しい。常任委員会として学習する必要がある。一二月議会まで継続審議にしてはどうか」という発言がありました。審議の結果、現時点で採択するとし、全会一致で可決されました。

本会議でも全会一致で採択

十月三日午後開催された県議会最終日本会議は、「三陸の海を守る請願」を、飯沢匡委員長報告の後全会一致で採択しました。

《再処理から 三陸の海を守れ》の声 ASTON・MILITARYで浸透

三陸リレー講演会は宮古で三百人、気仙で九十人を集めて静かな波紋を呼び、マスコミ各社も取りあげました。

岩手日報は、九月四日に「廃水の海水汚染懸念」宮古・陸前高田でシンポ・漁業者ら不安の声」という記事を報じました。岩手東海新聞（釜石）や宮古民友（宮古）、東海新報（大船渡）もかなり詳細に報じています。

岩手日報には、連日、三陸の海を心配する声が届けられています。

八月三十一日の夕刊論壇には、当会の永田文夫さんの「納得できぬ原発の回答」が載り、「声」欄には宮古の主婦の「海洋汚染から三陸を守ろう」と、高田の漁業青年の「核燃再処理の稼働を許すな」、の投書が載りました。岩手日報は県議会での「知事見解」について三段の記事を載せました。

盛岡タイムスは平沼議員の一般質問と知事答弁にスペースを割き、盛岡での私たちの署名行動も載せました。

県漁連発行の「ぎよれん」九月号には水口先生の「羅針盤一〇六回」が載り、「今こそ安全・安心な岩手の水産物の価値を訴える」と題して、漁業者・消費者、市民が結集して三陸リレー講演会を成功させたことを紹介しています。

カタログ雑誌「通販生活・秋号」には、ドキュメンタリー映画「ヒバクシヤ」の鎌仲ひとみ監督による櫻井よしこさんへのインタビューが載り「六ヶ所の『使用済み核燃料再処理工場』を動かしてしまつたら、もうあと戻りは出来ません。」という大見出しの記事が掲載されました。

インターネットでも私たちのホームページ／岩手の環境／四 廃棄物／再処理」には、様々な資料や運動の様子が掲載されています。この「ミニコミ通信」も、七号となりました。（尚）